

Softrevolution - eine Spurensuche in den Herzen der Menschen ソフトレボリューション — 人間の心の中に足跡を探して.....

2009年にドイツでは、壁の崩壊20周年の佳節をお祝い致します。

異なった行動を通して、人々の心の中の何がこのような結果へと導いて行ったのか。壁の崩壊は、東ドイツの人も西ドイツの人も予想さえできなかったできごとでした。20年が過ぎた今、両国が1つの国として新出発し、様々な困難を乗り越えて来た事実を、壁の崩壊後の1つの歴史としてお話しできると思います。

ドイツで起きたこの平和革命を心より喜んで下さった日本国民の方々が寄付金を集め、10.000以上の桜の木がベルリン、ブランデンブルクに植樹されました。春になると街をきれいに彩っています。

ドイツは、未だに東西間の問題に取り組んでいます。人それぞれ人間性が違うように、心の中にまだ壁の破片が残っている人もいます。

1つの架け橋。このプロジェクトでこれを取り上げており、私達ドイツ人がお祝いをする事の出来る壁崩壊の事実の根底にある点です。この根っこは、多くの人の心の中に存在しています。このテーマは、政治が本来国民のためにあるという意味で、素朴な庶民を国民という名前で定義付ければ、少なくとも政治の面でも触れなければならない点です。

人間の心の中に足跡を探して行くなれば、何が人間を動かして行くのかという点に到達するでしょう。このプロジェクトでは、人間の心の中に足跡を追っています。この足跡探しは、1つの立場から、また精神的な面、個人的な面からのアプローチをしています。これは、対話を重ねて行く上で手助けとなって行きます。そしてこの出会いの中でのみ全てが明らかになっていくでしょう。人と人を結ぶ架け橋。それを、この映画の中で表現しています。

Mauerfall Projekt mit filmischer Dokumentation und Präsentation in Japan

日本における、壁の崩壊のドキュメント映画とプレゼンテーション

計画しているのは、壁崩壊後20年をテーマにしたドキュメント映画です。西と東の人間がどのような経過をたどっていったか。どんな希望を持っていたか。20年経った今、この歴史的な壁の崩壊というできごとは、どんな意味を持っているか、とともに、将来的にどんなビジョンを持っているのか。

壁は人々の関係を切り離し、1つの国を2つの生活様式に区切ってしまいました。平和的な革命で、壁を崩壊させていったのは、人間の持つ力でした。政治と権力が壁を作りひどい政策を遂行したとしても、数え切れない程たくさん名もない人たちが壁の後ろに立っていたのです。

20年経ち、今一度深い意味を探り、1人の人間が、いかに政治的な活動に関与し、こ

の歴史的な過程を築いてきたのか、また現在も関与し続けているのか。何が人々を動かしたのか。壁が作られる前、最中、その後....と、このプロジェクトはこの点を追求しています。

40分のドキュメント映画は、壁の崩壊 20 年に際して人々の考えていること、持っている印象、個人的な観点を会話からくみ取らせ、宿命的な足跡を追うことにより、人々の生き様のあるパートを呈示し、それを記録しています。

この映画は、日本において色々な方に見て頂き、壁の崩壊の持つテーマを身近に感じ、一緒にお考え頂く 1 つの機会になるよう製作致しました。